

「宮沢賢治の作品を読もう」ワークシート1

宮沢賢治の作品を読もう

6年2組 ()

からすの北斗七星

を読みました。

※ この作品を選んだ理由を書きましょう。

からすどうしの戦争のお話なのですが、この月やた、すみれ島の事や、ちらんの特ごうたいの事とかさなって、印象に残りました。

※ 読んだ感想を書きましょう。

主人公のからすの大尉は、単に死するのがいやで、でも、明日出け"きしな"ければならない。その気持ち、少し想像しただけで、悲しくなりました。でも、いざ行く事になると敵は敵なので、単に死ななければ"ならない、それもまた悲しくなりました。そして戦いが終わって、から敵の死骸をほうむりたいといったからすの大尉は、本当に優しいからすなんだ"なよと感重れました。

※ 「雪わたり」や「やまなし」、その他今まで読んだ宮沢賢治の作品と比べてみましょう。

「雪わたり」や「やまなし」は、どちらかというところ、やさしい感じがしたけど、からすの北斗七星は、少し悲しんで、今までとは、るん団気がちがうなよと思いました。

※ 宮沢賢治はどんな考え方を大切にしているのでしょうか。読者に受けとめてほしい思いを考えてみましょう。(題名のつけ方・文章中の表現・言葉の使い方)

「雪わたり」も「からすの北斗七星」も、きつねとからすで、あまりいいイメージがある動物じゃないけど、宮沢さんのお話では、どちらも、優しいキャラで、宮沢さんは、きっと、どんな生き物もそれぞれ、いい戸片があるし、人を思いやりたりするのは、とても大団圓というのを感じました。でも時には、注文の多い料理屋のように、ユーモアもあって、いろいろな事を感じながら、暮らすのも良いというのを感じました。